

# 2025年 入試動向分析 データファイル

## CONTENTS

- P. 1 ... 2026年 大学入試の基礎知識
- 
- P. 10 ... 2025年 国公立大入試 志願者動向分析
- 
- P. 18 ... 2026年 国公立大入試 変更点速報
- 
- P. 22 ... 2025年 私立大一般選抜 志願者動向分析
- 
- P. 31 ... 進学にかかる費用

※この冊子に掲載されている内容は2025年4月時点の情報をもとに新教育課程履修者を対象としています。

# 2026年 大学入試の基礎知識

大学入試は学部・学科により入試科目が異なるケースが多いです。  
まずは大学入試の種類と仕組みについて確認しましょう。

## ■ 大学入試の3つの種類



### 一般選抜

主に学力検査で合否判定をする。

1月中旬の共通テストにはじまり、2～3月に各大学の試験が行われる



### 学校推薦型選抜

書類審査、小論文や面接などで主に人物評価によって選考を行う。

11月ごろから実施される予定

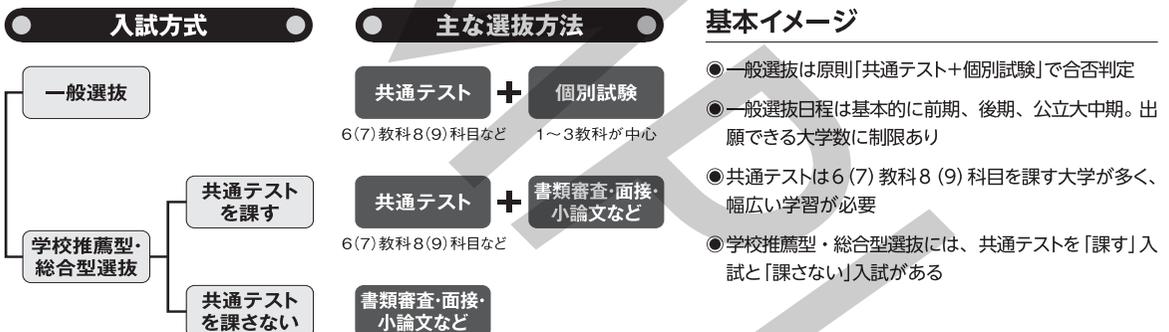


### 総合型選抜

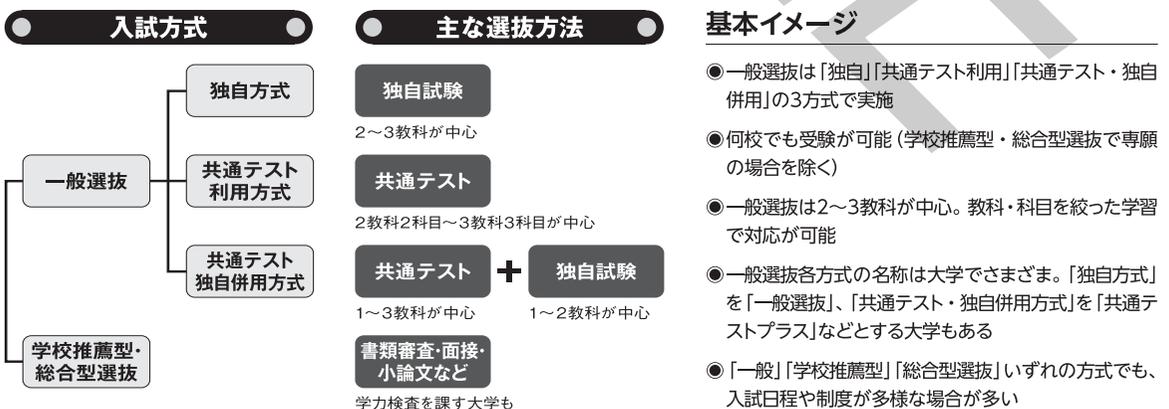
主に大学が求める学生像に、受験生が合致しているかどうかを、

面接や小論文などを通じて選考する。8月ごろから実施される予定

## ■ 国公立大入試のしくみ



## ■ 私立大入試のしくみ



# 2025年

# 国公立大入試 志願者動向分析

2025年国公立大入試について、人気度を示す「志願者動向」を分析する。  
大学受験生数の増加を背景に、一般選抜の志願者数は前年に比べて約1%増。  
共通テストは易化したが、「初志貫徹もやや慎重」な出願傾向が見られた。

## 全体解説

### 志願者微増、「初志貫徹もやや慎重」な出願傾向 千葉大、横浜国立大など準難関校が人気集める

#### 共通テストの志願者増に比例 現役志向で公立大人気が顕著

文部科学省の発表によると、2025年（以下、25年。他年度も同様）の国公立大一般選抜の確定志願者数は428,501人で、24年に比べ1.2%増加（独自日程で入試を行う国際教養大・新潟県立大・叡啓大・芸術文化観光専門職大は集計に含まれない）。全募集人員（98,236人）に対する倍率（志願倍率）は4.4倍で、前年に比べ0.1ポイントアップした（グラフ①）。

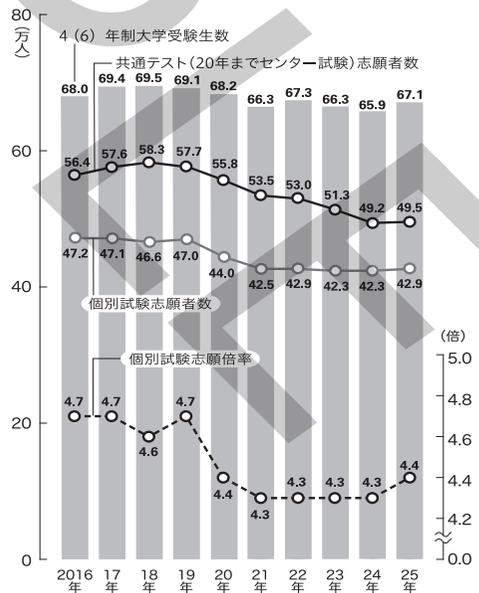
4（6）年制大学の受験生数は前年比で約3%増（本誌推定）、大学入学共通テスト（以下、共テと略）の志願者数も約1%増となり、基本ベースの拡大に比例して国公立大の志願者も増えた形だ。

入試日程別に志願状況（グラフ②）と志願倍率の変化（24年→25年）を見ると、前期は「1.5%増：2.9倍→2.9倍」、後期は「0.1%増：10.0倍→10.3倍」、公立大中期は「5.7%増：12.9倍→13.8倍」となった。募集人員の増減（前期：0.1%減、後期3.3%減、中期0.5%減）と比較すると、後期の募集枠縮小に対処するため、公立大中期の併願がやや増えたものと見ら

れる。

さらに、国立・公立別の志願状況を比べると、国立大の「前期0.6%増、後期0.9%減」に対し、公立大は「前期4.2%増、後期3.1%増」。公立大の人気アップが示される結果となった。

グラフ① 大学受験生数と国公立大志願者数・志願倍率等の推移



(注) 大学受験生数は通信制高校・特別支援学校高等部の出身者および高認合格者を含み、2025年は旺文社推定。

# 2026年

# 国公立大入試 変更点速報

2026年国公立大入試の志願動向に影響しそうな変更点を速報する。  
京都大や大阪大、名古屋大など難関大で学校推薦型・総合型の  
「女子枠」新設・拡大が続き、理工系学部で学科の統合が目立つ。

## 全体解説

### 学校推薦型・総合型が拡大、後期が縮小 理工系学部で学科の統合が目立つ

#### 京都大や大阪大など理工系で 「女子枠」の新設が相次ぐ

2026年（以下、26年。他年度も同じ）の国公立大入試の特徴と、志願動向に影響しそうな変更点を見ていこう。26年入試では、一般選抜の日程変更は25年とほぼ同程度だが、新増設・改組、募集人員の変更、学校推薦型・総合型選抜（以下、推薦型・総合型）の変更は増え、一般選抜の科目等の変更は減っている。

#### ①新増設・改組

理工系を中心に学科の統合が目立つ。北見工業大-工（2→1学科）、信州大-工（5→1学科）、九州工業大-工（6→1学科）・情報工（5→1学科）、熊本大-文（4→1学科）、名古屋市立大-芸術工（3→1学科）、兵庫県立大-工（3→1学科）で学科を統合・改組する予定。

佐賀大-コスメティックサイエンス学環、熊本大-共創学環、旭川市立大-地域創造、福井県立大-地域政策が新設予定。また、山形大-地域教育文化を「教育学部」に改組予定。佐賀大-教育、熊本大-教育では各教員養成課程を改組し、両大学が連携する「共同教員養成課程」を設置

する予定。一方、岡山大-法・経済で夜間主コースを募集停止する予定だ。

#### ②学校推薦型・総合型選抜の変更

理工系で「女子枠」の設置が相次ぐ。京都大-理・工、大阪大-基礎工をはじめ、岩手大-理工、埼玉大-工、広島大-理・工・情報科学、愛媛大-工、高知工科大-システム工学群の推薦型や総合型で女子枠を新設する。

また、名古屋大-工の推薦型では女子枠の実施学科を「4→6」に増やし、新潟大-工の推薦型で女子枠を募集人員増（5人→25人）、金沢大-地球社会基盤学類の総合型でも女子枠特別入試の実施コースを「1→3」に拡大する。

この他、茨城大-教育、群馬大-共同教育、上越教育大、札幌医科大-医、名古屋市立大-芸術工などで総合型を新規実施する。

#### ③一般選抜の日程・募集人員の変更

【入試日程】旭川医科大-医（医）、山形大-教育・医（医）、茨城大-地域未来共創学環、群馬大-共同教育、広島大-法[昼・夜]・生物生産、佐賀大-医（医）、長崎大-薬などで後期を募集停止。一方、筑波大-日本語・日本文化学類で前

# 2025年

# 私立大一般選抜 志願者動向分析

2025年私立大一般選抜について、難関校を中心に、人気度を示す「志願者動向」を分析する。あわせて、難易変動の指標となる「実質倍率」の変化も見ていく。

受験生数の増加率を大きく上回り、志願者は8%増。一方、合格者は絞り込まれた。

## 全体解説

### 志願者8%増、チャレンジ志向で難関校人気アップ 大都市圏志向が強まり、医・薬以外は文理ともに増加

#### 受験生数を超える増加率 共テ利用方式が大幅増

本誌では、学部学生の募集を行う全国の私立大学(583大学。通信制と専門職大学を除く)に対し、2025年(以下、25年。他年度も同様)の一般選抜の志願者数を調査した。4月中旬現在で集計した確定志願者数のデータは「221大学：約300万5千人」にのぼる。

この集計は2月に行われた各大学の独自入試

(大学が独自の試験問題等で行う入試)と大学入学共通テスト(以下、共テ)利用方式を主な対象とし、2月下旬～3月の「後期募集(共テ利用を含む)」も集計に一部加えている。

その結果、私立大一般選抜の志願者数は、24年の同時期に比べ、8%増加したことがわかった。今後発表される大学の志願者数を加えても、最終的に私立大の一般選抜志願者数は7～8%の増加となる見込み(グラフ1)。複数の入試日程・方式等を合計した「延べ志願者数」

グラフ1 私立大一般選抜志願者数と大学受験生数の推移

大学受験生数の増加率を上回り、私立大一般選抜の志願者数は7～8%の増加となる見込み。チャレンジ志向の復活、一方で強烈的な現役志向による併願増、学校推薦型・総合型選抜の競争激化による再挑戦者の流入などが要因と見られる。

(注) 志願者数は延べ数。文部科学省調査による。ただし、2025年の大学受験生数と私立大志願者数は旺文社推定。

